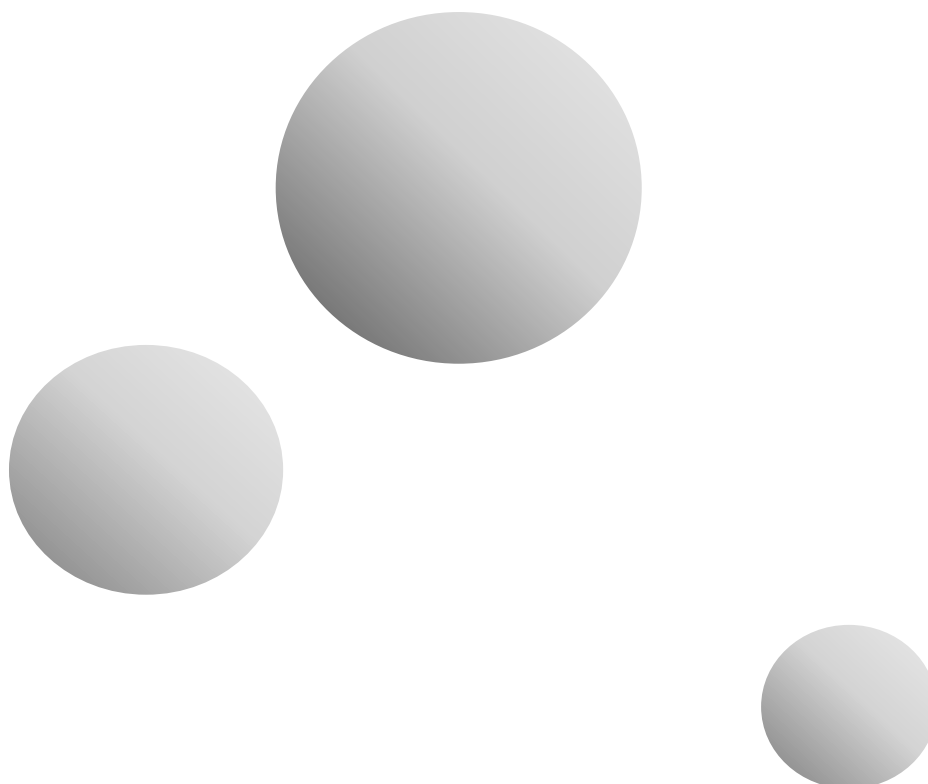


第5章

母子保健計画

～子どもが健やかに育ち、安心して子育てができるまち～



1. はぐくむ命

(1) 思春期

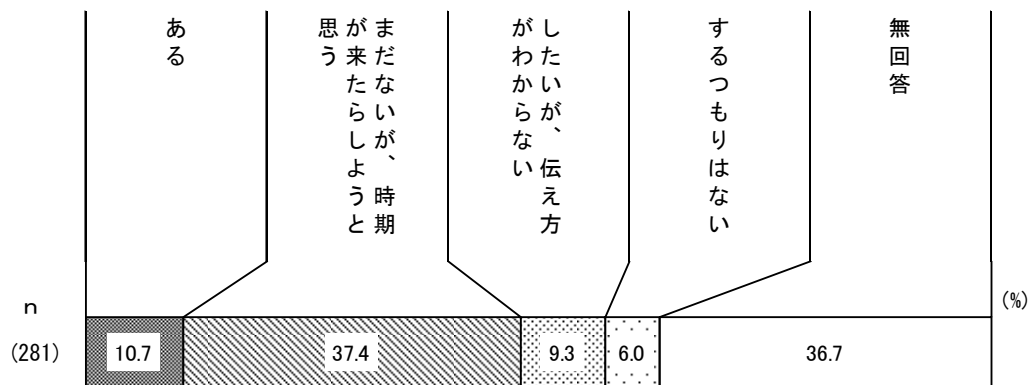
子どもが自分のからだについて知り、健康に生活できるようにします。

▶ 現状と課題

思春期における心身の健康づくりは、次世代の健康につながる重要な保健対策です。本市では、中学校と小学校で思春期講演会を実施し、性に関する正しい知識の普及といのちの大切さに重点を置いた教育を行っています。

また、市民アンケートでは家庭における性に関する教育について、伝え方が分からない、やるつもりはないと回答した人及び無回答の人は、合わせて52.0%と半数以上でした。そのため、心身の健康づくりについて関心を持ち、正確な知識を身につけることができるよう、思春期保健に関する支援を行っていくことが必要です。

■ 子どもへの性教育の有無



(2) 妊娠から産後

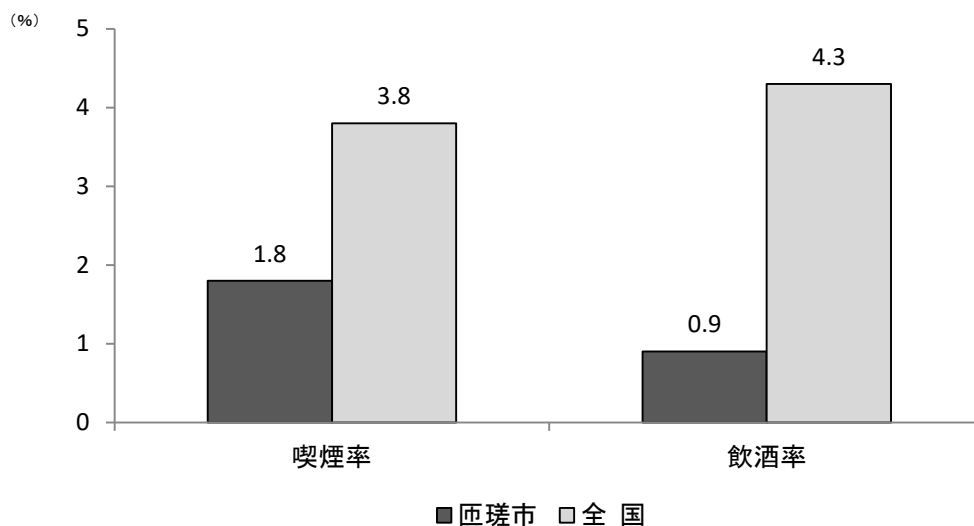
妊婦やその家族が安心して妊娠・出産を迎えることができるようにします。

▶ 現状と課題

安心して妊娠、出産ができるようにするためには、継続した相談支援体制が求められています。本市では、妊娠届出時に保健師が面接を実施する他、マタニティクラス（両親学級）でも情報提供を行い、支援を要する妊婦には個別に対応することで、母体の安全、健康増進に努めています。

胎児に影響を及ぼす飲酒・喫煙を行っている妊婦がいるほか、不安を抱える妊産婦が多数います。また、マタニティマーク^{※1}や産後うつ^{※1}の認知度が低く、妊婦を取り巻く環境を整えていく必要があります。安心して出産を迎えるために、妊娠中から、妊娠・出産に関する知識を持ち、家族等周囲から協力が得られる環境づくりが必要です。

■ 妊娠期間中の妊婦の喫煙・飲酒率

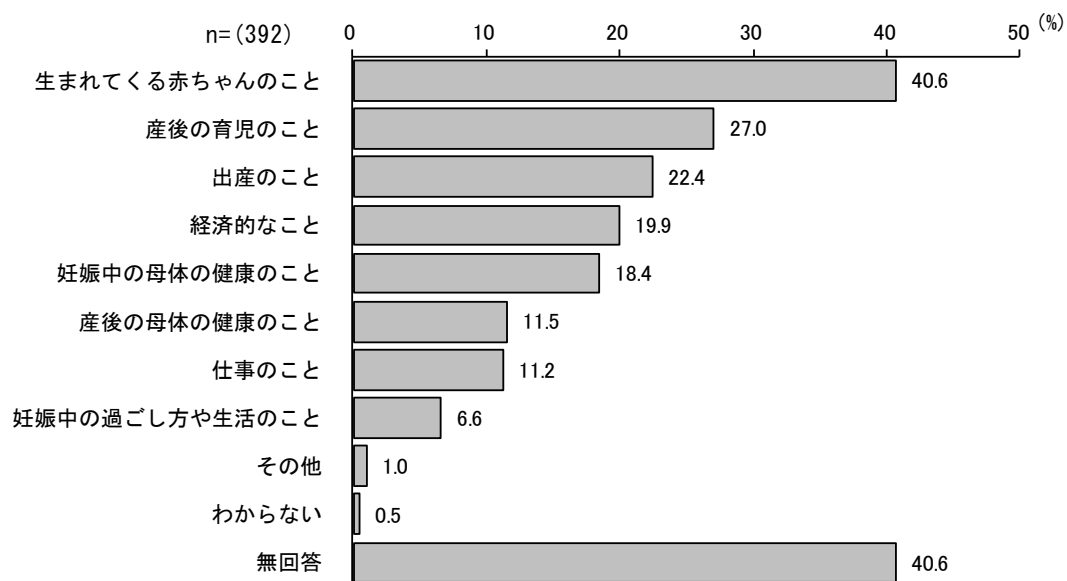


資料：匝瑳市データ 健やか親子21（第2次）に基づく指標調査（平成28年4月から9月まで実施分）
全国データ 健やか親子21（平成25年度）

※1 マタニティマーク

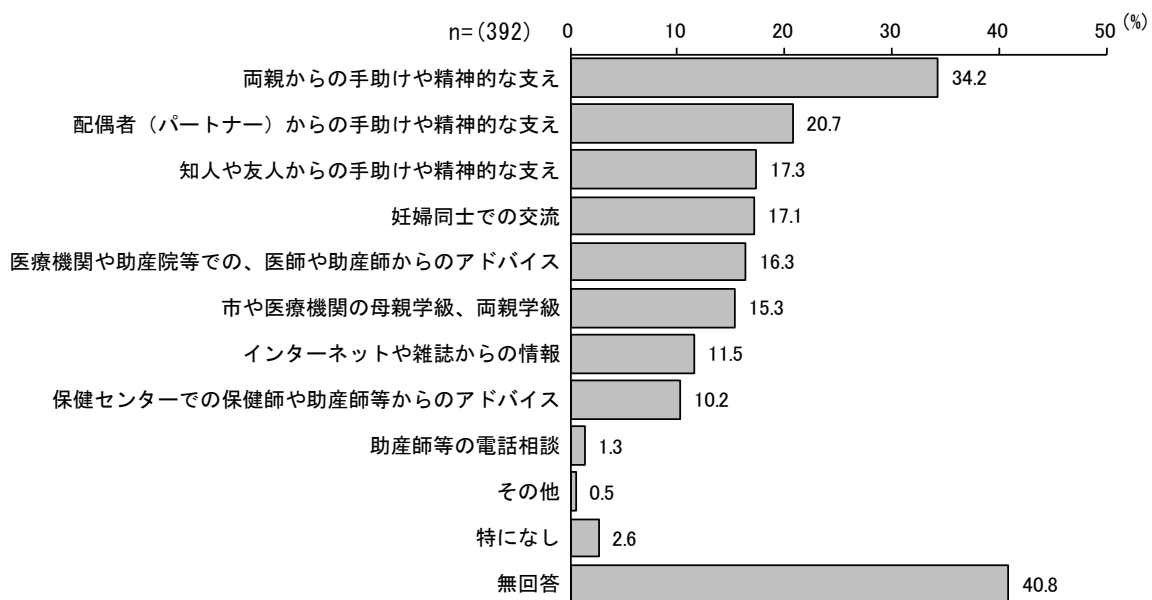
妊産婦が交通機関等を利用する際に身に着け、周囲に妊婦であることを示しやすくするもの。
また、交通機関等がポスター等を掲示し、妊産婦にやさしい環境づくりを推進するもの。

■ 妊娠中の不安や悩み



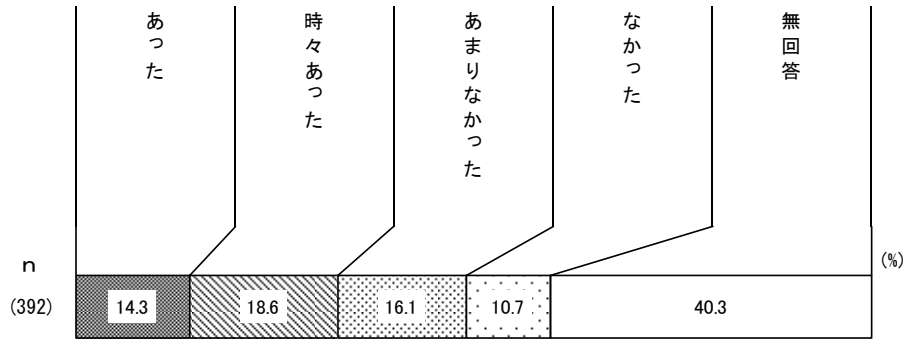
資料：市民アンケート（平成28年7月実施）

■ 妊娠中の不安や悩みの解決に役立ったもの



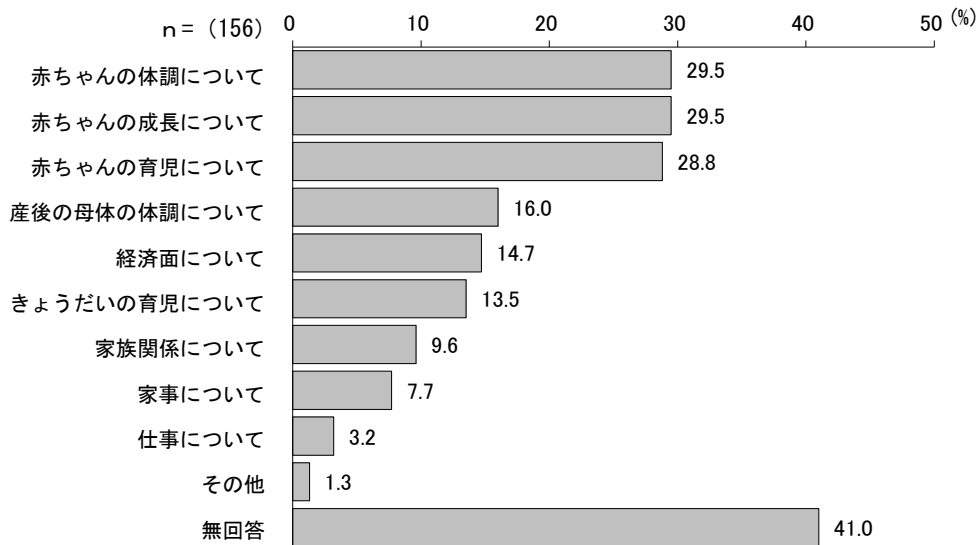
資料：市民アンケート（平成28年7月実施）

■ 妊娠中から産後3か月までの間に、気分が沈む、涙もろくなる、何もする気になれないということがあった人の割合



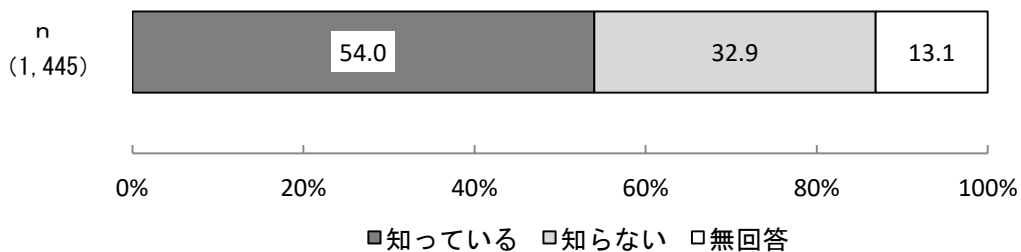
資料：市民アンケート（平成28年7月実施）

■ 産後3か月頃の心配ごと



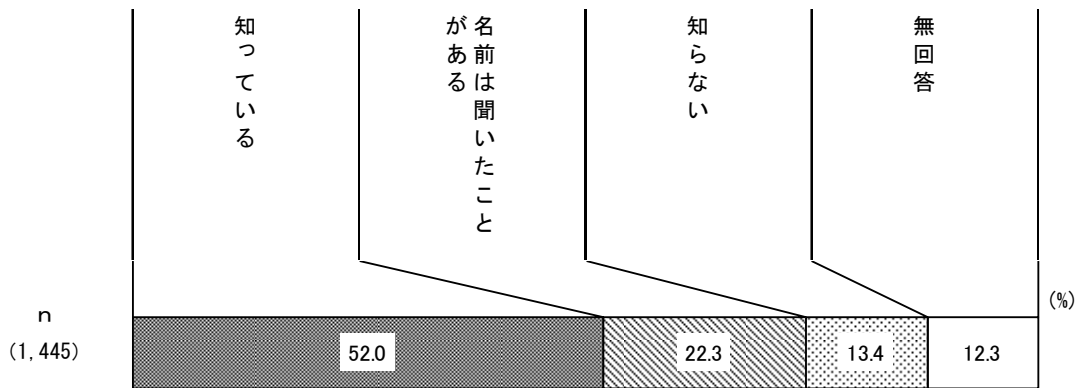
資料：市民アンケート（平成28年7月実施）

■ マタニティマークの意味の認知度



資料：市民アンケート（平成28年7月実施）

■ 産後うつの認知度



資料：市民アンケート（平成28年7月実施）

▶ 市民の取組み

<思春期>

- 自分のところとからだを大切にしましょう。
- 一人で悩みを抱えず周囲に相談しましょう。
- 性や健康づくりに関する正しい知識を身につけ、適切な判断が出来るようにしましょう。
- 健康への意識を高め、規則正しい生活習慣を身につけましょう。
- 家庭内で会話をする機会を増やし、子どもの成長に目を向けましょう。
- 家庭内で性教育ができるよう、正しい情報を得て子どもに伝えていきましょう。

<妊娠から産後まで>

- 妊娠したら、まず母子健康手帳の交付を受けましょう。
- 出産や子育てに関する情報を集め、家族で子どもを迎える準備をしましょう。
- 妊娠・出産期間は、病院等で妊産婦健診を受ける等、日頃の健康管理に気をつけましょう。
- 妊娠中や授乳中の喫煙及び飲酒はやめましょう。周囲の人は、たばこの害から妊産婦を守りましょう。
- 妊娠・出産等に関して不安がある時は、一人で抱え込まず相談しましょう。
- 地域全体で妊産婦を温かく見守り、協力できることは手伝いましょう。

市の取組み

<思春期>

- 学校と連携し、性に関する正しい知識の普及といのちの大切さに重点を置いた教育を行っていきます。
- 保護者に対しても、思春期保健に関する普及啓発をしていきます。

<妊娠から産後まで>

- 妊娠前の若い世代に対し、将来に向けたイメージができるよう、性や妊娠に関する正しい情報を提供します。
- 妊娠届出時に、母子健康手帳・父子健康手帳を交付し保健師が届出者に面接を行い、妊娠や出産に関する相談に応じ、不安の解消に努めます。
- 妊婦の健康の保持及び増進を図れるよう健康診査の受診を勧奨し、費用の一部を助成します。
- 妊娠届出時から支援の必要な妊婦を把握し、必要に応じて関係機関と連携して支援を行います。
- たばこやアルコールの害について、妊産婦や周囲の人に伝えていきます。
- マタニティクラス等で、妊婦の健康管理や母性・父性をはぐくむ教育を行うとともに、妊娠・出産に関する相談に応じ、不安の解消に努めます。
- 産後の体調や赤ちゃんの成長・育児に関する相談に応じていきます。
- 妊産婦が安心して地域で暮らせる環境を整えるために、広報等で普及啓発をしていきます。

■目標値

項目	平成28年度 現状値	平成38年度 目標値
思春期講演会の開催	中学校全校 小学校2校	維持
妊娠中の喫煙率	1.8%	0%
妊娠中の飲酒率	0.9%	0%
マタニティマークの意味の認知度	54.0%	65.0%
産後うつの認知度	52.0%	60.0%
こんにちは赤ちゃん訪問実施率	97.4%	100%

※ 「こんにちは赤ちゃん訪問実施率」の現状値は平成27年度の実績値

2. 健やかな身体

子どもが安全で健康に過ごすことができるようにします。

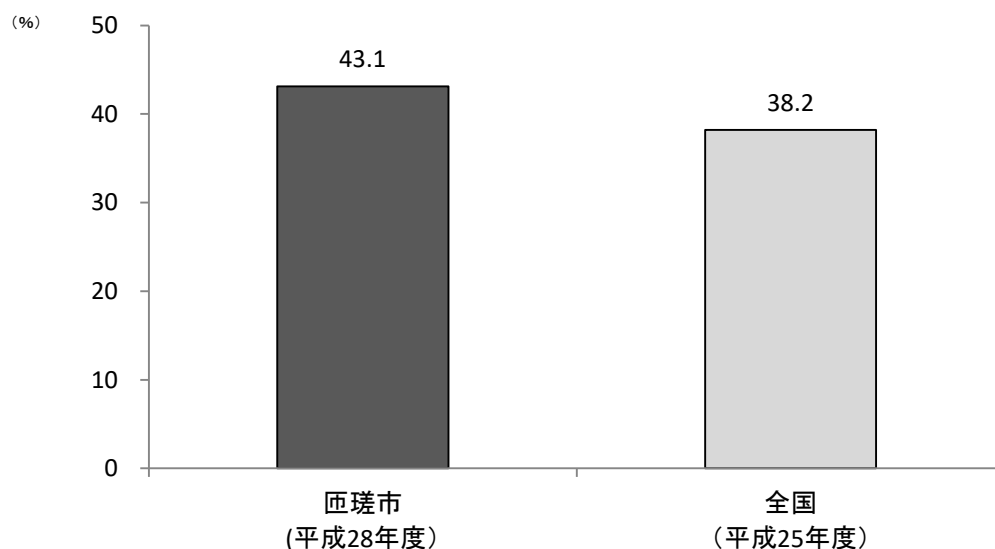
▶ 現状と課題

乳幼児期は生涯を通じた健康づくりの出発点であり、本市では、子どもの心身の成長のために乳幼児健康診査・予防接種・各種相談の充実を図るとともに、子どもの成長と発達に応じた親への知識の普及と啓発に取り組んでいます。

健やか親子21（第2次）に基づく指標調査によると、浴室の事故予防の取組みをしている家庭は半数以下となっています。また、育児期間中の喫煙率は母親が8.7%、父親が41.5%となっています。子どもの安全な環境を整えるために、事故予防や受動喫煙の害についての普及啓発を行っていく必要があります。

子どもの健やかな成長を乳幼児健診や各種相談を通して、引き続き支援していく必要があります。

■ 浴室の事故予防をしている割合



資料：匝瑳市データ 健やか親子21（第2次）に基づく指標調査（平成28年4月から9月まで実施分）
 全国データ 健やか親子21（平成25年度）

▶ 市民の取組み

- 早寝早起きやからだを動かして遊ぶことの習慣化、規則正しい食生活等、子どもの生活リズムを整えましょう。
- 子どもに食べることの大切さを伝え、家族で食事をするのが楽しいと感じられるように工夫しましょう。
- 周囲の人は、たばこの害から子どもを守りましょう。
- 適切な時期に健診や予防接種を受けましょう。
- 家庭内の子どもの事故防止に取り組みましょう。
- かかりつけ医を持ちましょう。

▶ 市の取組み

- 子どもの成長と健康の把握、育児支援につながる乳幼児健診を実施します。また、未受診者の把握に努めます。
- 発育や発達に遅れのある乳幼児の早期発見に努め、医療や早期の療育につなげていきます。
- 乳幼児の病気や事故予防と対応方法の普及啓発を行っていきます。
- 定期予防接種に関する情報提供と勧奨を徹底していきます。
- 乳幼児期からの生活リズム、生活習慣に関する保健指導を継続して実施していきます。
- たばこの害について伝えていきます。

■ 目標値

項目	平成28年度 現状値	平成38年度 目標値
4か月児健診受診率	96.9%	100%
1歳6か月児健診受診率	97.1%	100%
3歳児一般健診受診率	95.0%	100%
浴室のドアを乳幼児が自分で開けられないように工夫している家庭の割合	43.1%	60.0%
育児期間中の母親の喫煙率	8.7%	4.0%
育児期間中の父親の喫煙率	41.5%	20.0%

※ 「4か月児健診受診率」、「1歳6か月児健診受診率」、「3歳児一般健診受診率」の現状値は平成27年度の実績値

3. 楽しい子育て

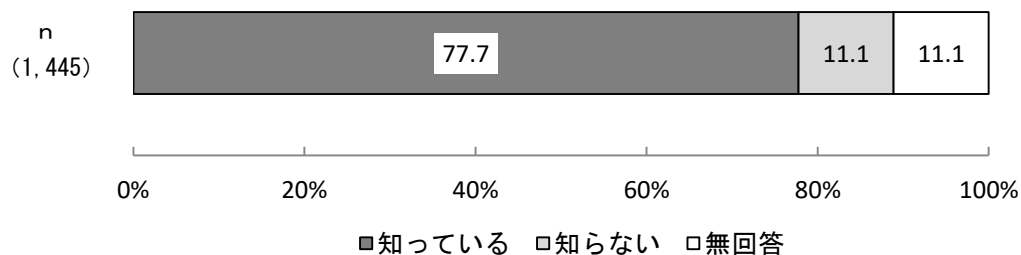
親が笑顔で子育てができるようにします。

▶ 現状と課題

親が子育てをする中で何らかの不安を感じることは多く、子育てにおける悩みとしては、子どものしつけや病気、成長・発達、食事についてが多くなっています。こうしたなかで親が安心して育児できるような支援体制が必要であり、本市では、健診・相談・訪問等で親の気持ちに寄り添う支援をしています。

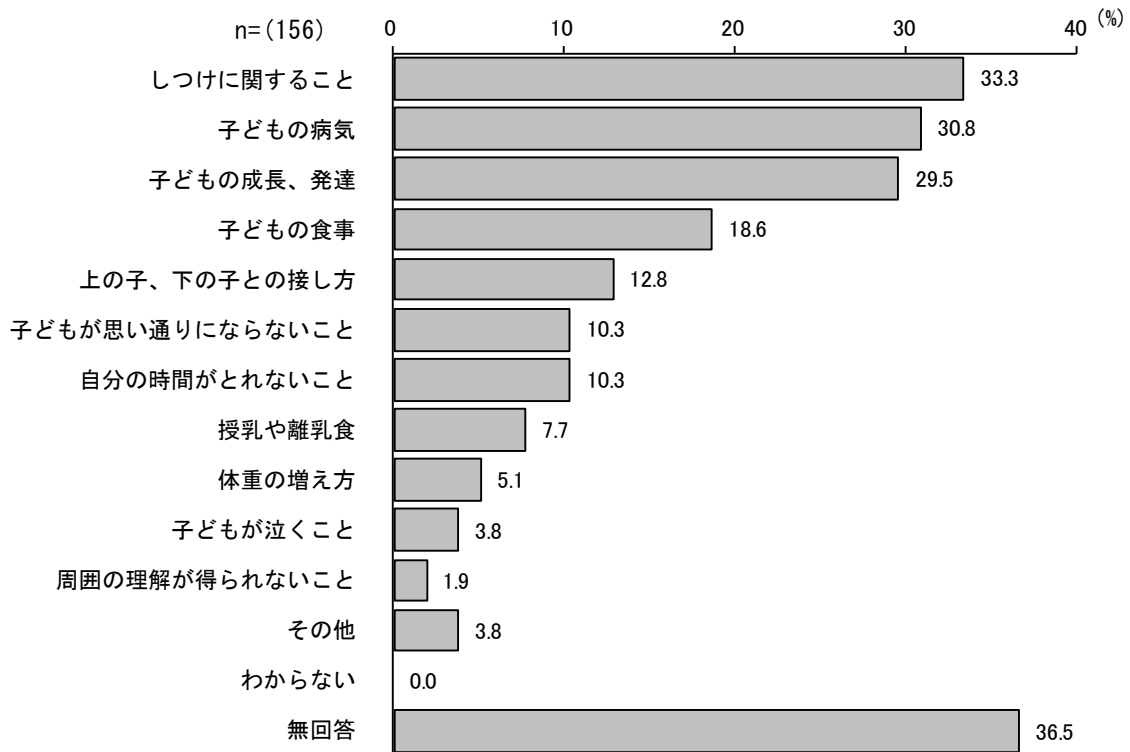
子どもの年齢が上がるにつれ、ゆったりとした気分で過ごす親の割合は減っており、育てにくさを感じている親の割合は増加傾向にあります。そのため、年齢に応じたかかわり方を相談等を通して伝えていくほか、周りの人の育児参加を促していく必要があります。

■ 父親が育児休業を取得できることの認知度



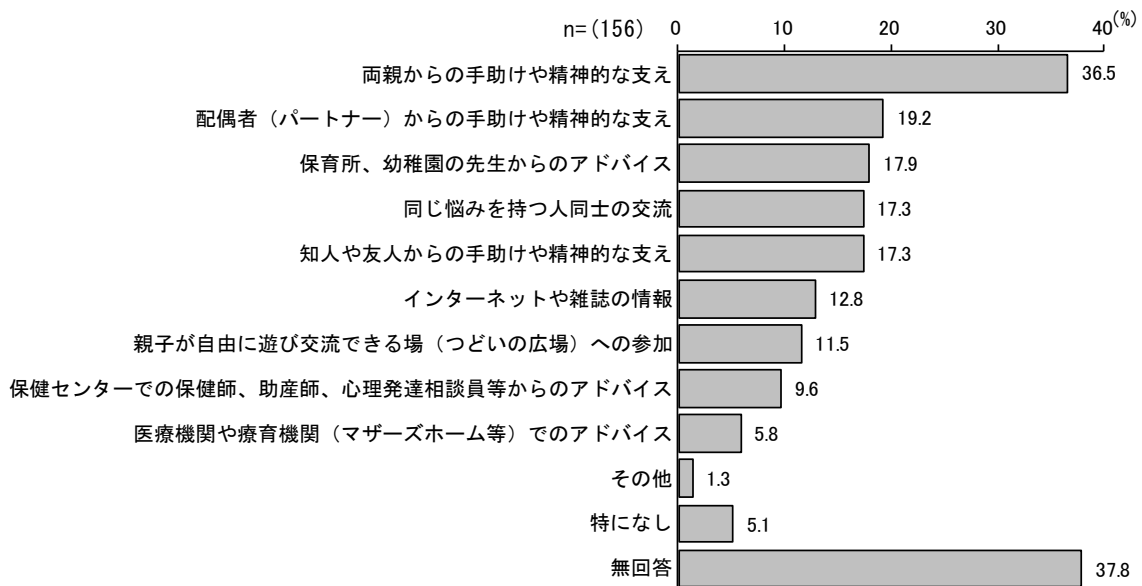
資料：市民アンケート（平成28年7月実施）

■ 就学前の子育ての不安や悩み



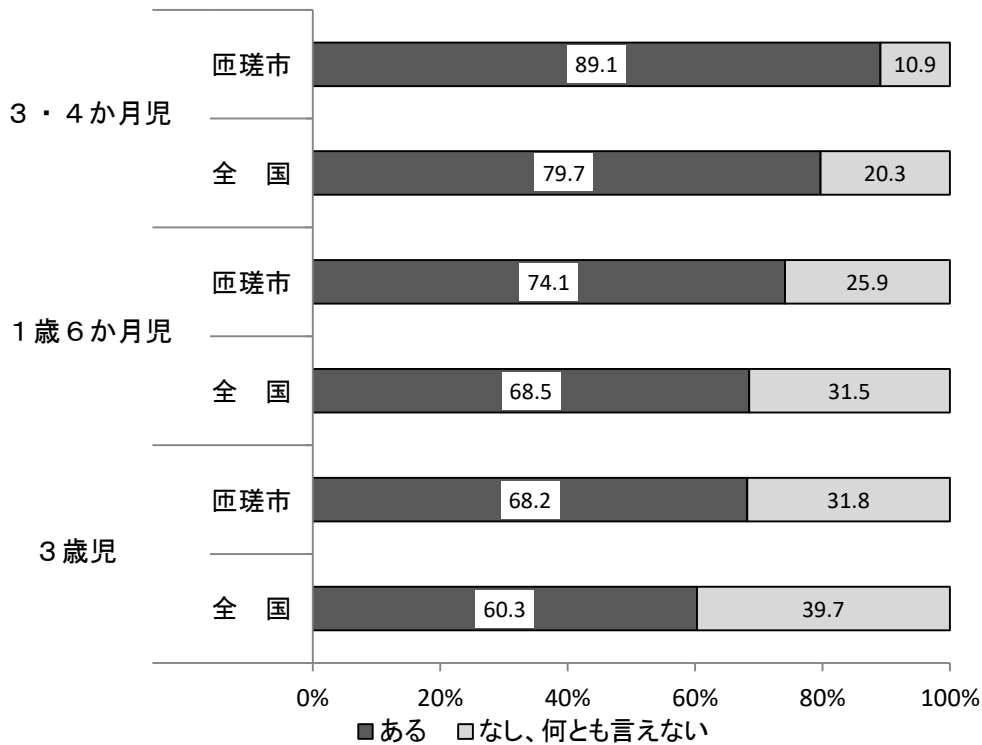
資料：市民アンケート（平成28年7月実施）

■ 就学前の子育ての不安や悩みの解決に役立ったもの



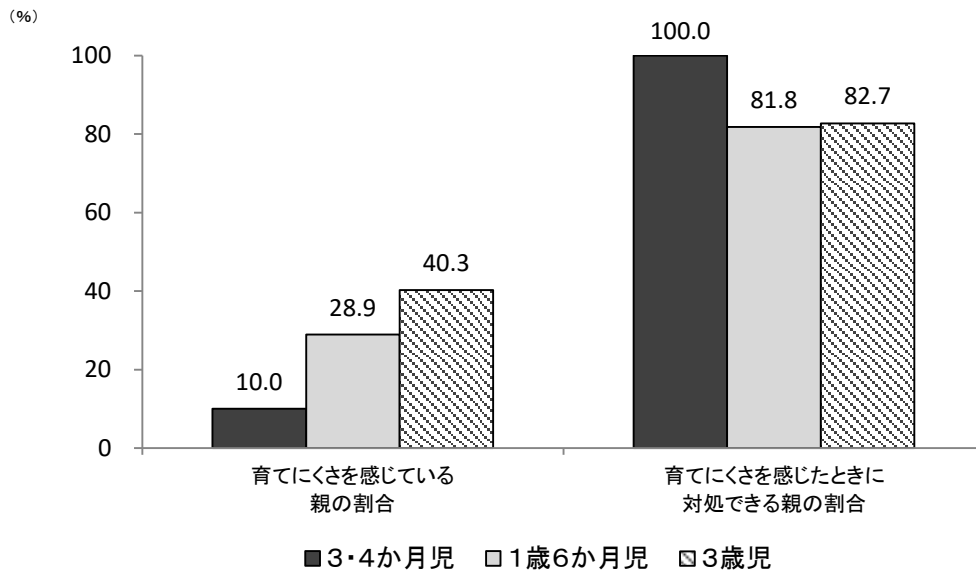
資料：市民アンケート（平成28年7月実施）

■ ゆったりとした気分で子どもと過ごす時間のある母親の割合



資料：匝瑳市データ 健やか親子21（第2次）に基づく指標調査（平成28年4月から9月まで実施分）
 全国データ 健やか親子21（平成25年度）

■ 育てにくさを感じている親の割合及び感じたときに対処できる親の割合

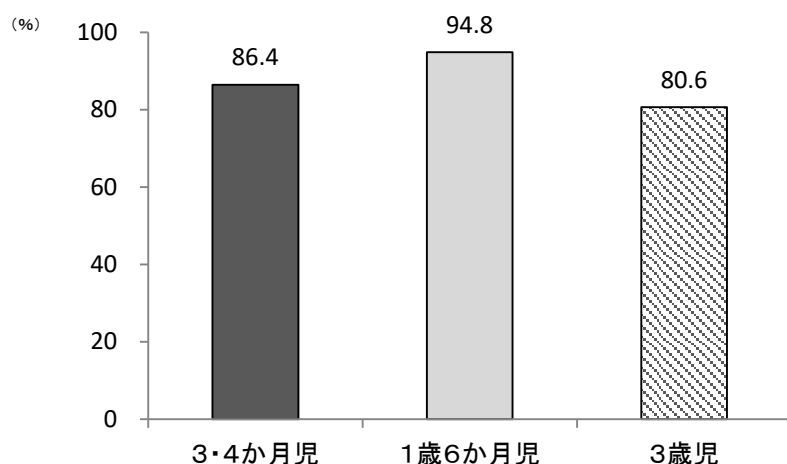


資料：健やか親子21（第2次）に基づく指標調査（平成28年4月から9月まで実施分）

■ 子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合

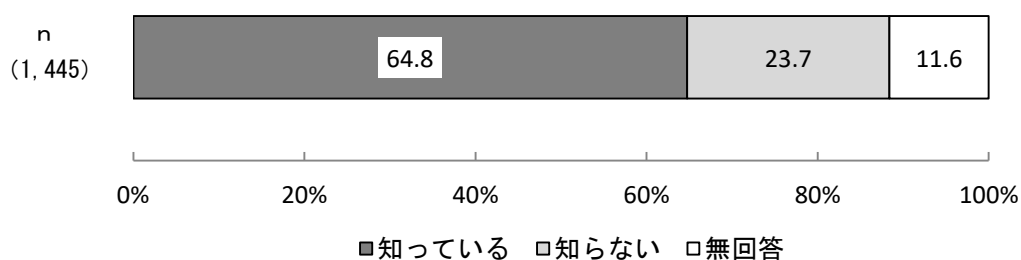
※ 健やか親子21（第2次）に基づく指標調査における、子どもの社会性に関する質問項目は、下記のとおりです。

- 3・4か月児 生後半年から1歳頃までの多くの子どもは、「親の後追いをする」ことを知っていますか。
- 1歳6か月児 1歳半から2歳頃までの多くの子どもは、「何かに興味を持った時に、指さして伝えようとする」ことを知っていますか。
- 3歳児 3歳から4歳頃までの多くの子どもは、「他の子どもから誘われれば遊びに加わろうとする」ことを知っていますか。



資料：健やか親子21（第2次）に基づく指標調査（平成28年4月から9月まで実施分）

■ 児童虐待の通報義務の認知度



資料：市民アンケート（平成28年7月実施）

▶ 市民の取組み

- 子育ての悩みは一人で抱え込まないで相談しましょう。
- 夫婦は話し合い、協力して育児をしましょう。家族は子育てを見守り、必要に応じて手助けをしていきましょう。
- 子ども同士、親同士の交流を図るため、保育園の園庭開放やつどいの広場等、地域の社会資源を利用しましょう。
- 地域全体で子育て世代に関心を持ち、温かく見守りましょう。

▶ 市の取組み

- 父親や家族の育児参加を促進します。
- 子育てが楽しみになるように、子どもの成長や発達、かかわり方等について情報提供していきます。
- 育児に関する相談窓口の周知と子育てに関する情報提供を行っていきます。
- 不安や悩み等に対する相談・訪問指導を継続して実施します。
- 育てにくさを感じている親に寄り添い、必要な支援を行っていきます。
- 地域全体で子育て世代を温かく見守ることができるよう普及啓発を行っていきます。
- 児童虐待の予防、早期発見・早期対応を図るため、関係機関や関係団体との連携を強化し、情報の共有を行いながら対応していきます。
- 児童虐待防止に関する啓発を行います。

■ 目標値

項目	平成28年度 現状値	平成38年度 目標値
積極的に育児をしている（よくやっている）父親の割合	62.2%	70.0%
育てにくさを感じたときに対処できる親の割合	88.2%	95.0%

